

【パネルディスカッションでの議論内容(敬称略)】

(阪本) 肝付町の方で民間の宇宙開発のためのプラットフォームなどを検討されているということなんですけど、その可能性について探っていきたいと思います。今回の参加者リストを事前に頂戴していて、戦々恐々というか、もちろん登壇者は登壇者で中心になって開発を進めておられたりするわけなんですけど、実際にこれまでロケットの開発に携わってこれらの方、あるいは、その周辺で支えてこられた方々がフロアに大勢ご参加です。それから地域の方々も加えてご参加いただいておりますので、もはや、前後ろの区別なく、いろいろとフラットに議論したいと思っています。最初の10分程度、内之浦、肝付をどのようにしていくのがいいのか、そういった観点から色々話をできればなと思っています。お手元の資料の方に行政の方で具体的に考えておられる、民間射場のイメージがありまして、これはおそらくこれまで色々なニーズをもとに描かれています。私にはフルスペックのイメージがあると思っています。射場だけではなくて、それを支える方、あるいは県内・県外からその様子をごらんいただくようなそういう方についてのサービスもこのイメージの中に全て盛り込まれているというふうに思っています。これを全部整備するといくらになるのか、果たして肝付町の財政規模でどこまでやれるのかとかわからない部分もありますけれども、みなさんにお伺いしながら、その辺りを少し絞り込むことも考えております。それで、進め方についてちょっと悩んだんですけども、そもそもこれ成り立つんですか、夢も希望もあるんですけど、あまり風呂敷を広げすぎて、後はすみません、失礼しますとなると地元の方は大変になると思うので、少しその辺り、ちゃんと成り立つ計画になるように、様々な立場からアイデアを持ち

寄って、まずは、地域にとってどういうことをするのが有効なのか、我々活用する立場のものにとってそれを肝付町に持つことの意義、我々が肝付町に対して期待することは何なのかを整理した後で、それが実際整備された後で具体的にどう使うのかとか使用目的に合致したような整備内容にしないといけないので、それをどういう内容で、もちろん予算のこともありますので、全てやることはできないかもしれないけど、どんな整備をすればいいのか、そんなあたりのこととして、あと自由討論に移ろうかなと思っています。私ばかりお話しするのもあれなんですけど、民間射場を整備した時に、事業効果とかメリットというのがあると思うんですね。私自身今やっているALMA計画の予算を要求した時に、野村総研かなんかにお願いして、事業効果、果たしてそれが国民や色々な人たちにとってどういうメリットがあるのかを整理したことがあります。同様にここに民間の射場を整備することによって、色々な受益者がいて、それは個人であったり、あるいは地域であったり、大学であったり企業であったり国だったりしてるわけですけども、どういうところにどういうメリットがあるのかな、なんてことを考えてみたんですね。○とか△とか、全く私の私見なんですけども、受益者、圧倒的に地域のためという部分が多いような気がするんですけども、そこで最後の研究と開発という部分で、実際に事業者の方でどこまでメリットを感じることができるのか。そんなことを見ていくのかなと思います。アンケートの結果を最初に見て、ざっくり言うと大学の人間は何となく、タダで作ってくれるんだったら関心がありますというのが多くて、事業者の方は割とシビアで、行くかって言ったら、多少リップサービスくらいあってもいいかなって思ったんですが、割と厳し

い見方をされてるようなそんな印象を受けました。その中で特に地域振興にとってキーとなるような若者、ばか者、よそ者といわれる人たちを呼ぶにはどうすればいいのかということなんですね。じゃあ、最初の観点なんですけど、地域にとって本当に宇宙産業、あるいは大学が来たっていう時に、どのくらい短期的や直接的な消費の拡大になるのか、どのくらいの人に来るのかとか、そういった辺りのイメージがまだできてないような感じがするので、その辺りちょっと、大学のお立場とか民間の宇宙事業者のお立場から、もしこちらに来て活動されるとしたらどんな感じの活動があるのか、その事業規模とか学生を何人くらい連れて、どのくらいの期間そこを使うのか、消費ではどんな感じことを考えるのかとか、その辺りの具体的なイメージをフロアの皆さんに共有できればなと思うんですが。

(片野田) そうですね。私の場合は燃焼実験がこちらでできればいいかなと思っています。理由は、非常に音がうるさいということと危険が伴うためです。ハイブリッドロケットは固体液体と比べて安全とはいえ、それなりの危険は伴います。宇宙開発に理解のある場所で燃焼試験ができればいいかなと思います。人数と規模としては、10名くらいが1回の試験で2日か3日滞在して、それを年に3、4回できればいいかなと考えています。北海道の大樹町において植松電機の実験棟があります。その利用率を聞いたことがあります。1週間くらいの滞在が年に15回くらいはありますとおっしゃっていました。やっぱり射場だけではなく、研究者が集える設備があると燃焼試験をするにしても何か業者が集える、研究のために来る、そういう設備があればいいかなと思います。

(中村) 我々は衛星事業者なので、衛星事業者が突

然肝付町に来て、衛星を作るというのは、ちょっと正直考えづらいと考えており、それで先ほどから射場の整備ということがある。やはり現在の設備を生かすという意味では、やはりロケットだろうなと思います。ロケット事業者をやはり誘致してくるってことがすごく大事ななと思います。日本でいうとどこかという、JAXA以外というインターステラテクノロジズで、大樹町でやっているホリエモンロケットのところですけども。大樹町に対抗意識を燃やすのではなくて、例えば第2射場に使用してもらおう。大樹町だけで全部打ち上げられるかどうかは分からないわけですし、射場の整備度合いでいうと既存のJAXAの設備を利用できるという点では、内之浦の方が圧倒的に強いと考えますので、そのメリットを強調して、内之浦から打ち上げてくれと、例えば、営業しに行けばいいと思うんですね。彼らが目指している世界というのは、我々がやっている衛星が顧客となるわけです。我々は今後衛星を50機打ち上げるって言ってますけど、50機打ち上げたら終わりではなくて、衛星の寿命は5年くらいと考えていますから、基本的に打ち上げていく必要がある。そうすると年間10機から20機。継続的に打ち上げていく必要があります。そうするとインターステラテクノロジズが打ち上げているロケットですとピロードが100キロ程度かと思えますので、1回の打ち上げで1機しか打ち上がりませんから、最低10機打ち上げる必要があるわけです。それで最低、我々の需要だけでも年間、彼らのロケットを使うとしたら10機の打ち上げがあるわけです。半分大樹町で上げるとしても、半分ここでやったら、それでも年間5機確保できるわけであって、当然、彼らの顧客は我々だけじゃないですから、いろんな事業者が使うとなると、打ち上げ回数ももっとも

増える。ロケットの打ち上げ回数が爆発的に増えるという前提で考えた方がいいなと思っていて、そうすると今度は我々が衛星をここで組み立てた方が安いことになるわけですよ。量産になった時に、量産時に開発要素はないわけですから。組み立てて試験するだけです、別に東京で開発しなくてもよくなるわけです。そうすると、次から次に打ち上げてくれるわけなので、肝付町で衛星を作った方がいいですよねという結論になるわけです。なので、そういうバンバン打ち上げてくれるような事業者をやはり誘致するというのはいいのではないかと考えておまして、事業規模はなかなか難しいけど、ロケット1本につき数億で我々だけで5本だから、10億とか15億の彼らは売り上げが生じるわけですね。そうすると、そんな数年でできることではないんですけど、長い目で見るとそういう環境を整備できると何十億からうまくいけば100億を超えるような規模の事業になる可能性はあるなと思っておられます。そこまでなってくると、人が来て継続的に作業するということが発生してくるかもしれないなと思ってます。

(阪本) 人員の数っていう意味では、ロケットの場合はイメージしづらいかもしれませんが、もし、ロケットがバンバンあがって衛星をこちらの方で整備して打ち上げ前の試験をすとしたときにだいたいどのくらいでしょうか。

(中村) そんなにたくさん必要ありません。おおよそ3人から5人といったところです。

(阪本) むしろ打ち上げサービスの方が人数が必要でしょうか。

(中村) ロケットの方が圧倒的に人数多いと思います。

(阪本) 大学側では打ち上げもさることながら、地上での試験も行っています。JAXAの方でもそうなんですけど、内之浦で打ち上げを

するその瞬間には非常に大勢の人が来るんですけど、かなりの数の研究者は実は能代に勤めていて、そこで様々な実験を長い時間かけてやっているの、それをこっちに一部移すというか。特に西日本の研究者にとってのそういう1つの実験拠点というか能代に相当するようなものを肝付町に置けないかそのようなご提案ですかね。

(片野田) おっしゃるとおりです。JAXAはいいですけど、国立大でロケットやっている方はおそらく全員燃焼試験で周りの方に迷惑をかけてると思うんですね。燃焼試験ができるとなると遠くからでも来るんじゃないかなと思うんです。ぜひ肝付町のどこかにそういう設備を作っていただけるとありがたいと思います。設備を作らなくても、小さなエンジンでしたら、ランチャー作ってますから、ランチャーを使って垂直式で燃焼試験してくれると思います。お金をかけずに来てもらって、場所を提供するということは可能ではないかと考えています。そういうことから先に環境を整備していただけるとうありがたいなと思います。

(阪本) 本当に安く、それこそ公園の一部みたいなところを使う。そういう認識ですか。

(片野田) そうですね。小型のハイブリッドロケットでしたら、ランチャーを使ってエンジンだけの燃焼試験をやっているところも結構ありますので、肝付町でそれが程度自由にできるということになれば、大学や事業者は来るんじゃないかなと考えています。鹿児島大学は当然来ますが、他県からも来るんじゃないかなと思います。

(阪本) 中村さんの方で、ロケットをたくさん打つとして、そうすると軌道によっては北海道から打つよりもこちらから打ったほうが全然いいというケースがあると思うんですが、その辺りはメリットがどう違いますか。

(中村) 我々の場合は、全て極軌道なので、正直、

大樹町でもこちらでもどちらでもいってという状況ではあります。ただし他の事業者が必ずしもそうではないかもしれないので、場合によっては、内之浦の方からいいという人がいるかもしれないです。我々の場合はどちらでも打ち上げてくれるところに行くって感じではありますね。

(阪本) 我々利用者側、北、南って話がありましたけども、その他にもいろんなメリット、デメリットあると思うんですね。JAXA の職員がいるから何かいいことがあるとか、そういうことって何かあるんでしょうか。

(中村) あると思います。もちろん、JAXA が協力的という前提ではありますけれども、JAXA の人がいるから、安全面の取組みですとか、既に整備されているものがあるわけですし、他の地域にはない特徴をあげるとすれば、それだと思うので、それをうまく生かすということが当然ながら必要だと思います。

(片野田) それは非常に大きいと思います。JAXA の方だけではなくて、例えば技術者の方とかオープンにできる範囲で情報交換できる場があれば、非常にありがたいなと思います。人が集まるんじゃないかと思います。

(阪本) 一方でライバルの存在と書いてありますけど、大樹町、あるいは能代、和歌山からも打ったりしてますけども、その辺りとのすみわけっていうか、強みや町に期待することはありますでしょうか。

(片野田) 1 番の強みは漁業交渉がきちんとできていることだと思います。1 週間前に北海道の永田先生のところを訪ねる機会がありましたけれども、北海道は漁業交渉がうまくいっていないとのことでした。10 キロ以上はまだ打てないという状況で、おそらく、インターステラテクノロジズもそれまでまだ打ち上げられないじゃないかなと思います。永田先生にお聞きしたのは、もし肝付町が打ち上げ環境が提供できた場合

に、こちらに来て打ち上げますかと聞きました。そしたら、100 キロ以上打てるという環境を整備してくれれば、可能性はあるとおっしゃっていました。それで先ほど申し上げましたけれども、100 キロあったら、ランチャー持ってこれますので打てる環境を早急に整備する必要があります。打てる環境というのは、台をつくる必要じゃなくて、打ち上げ場所、平地ですね、それと立ち入り禁止の区域を設定できれば、CAMUI ロケットをこちらで打つ可能性はある。インターステラテクノロジズはどうか分かりませんが。打上げる環境を整えてあげれば肝付町で打ち上げてくれる可能性はあると思います。それだけをターゲットにしてしまうと大樹町から睨まれてしまいますので、それを念頭に置きつつ、仮に CAMUI はここから打ちあがったとしてもそれ以降のこれから出てくるとは思います。ここで 100 キロまで打てます。ここにこの機械があったら打てますと全国に PR すれば、いずれここで打ち上げる空気が出てくるんじゃないかなと。自分の方はちょっと時間がかかりますけど。そういう活動を始めるのは早い方がいいと思います。

(阪本) 割と高度が上がるような、小規模の実験をやる上では能代だったり、和歌山だったりというところがあるけれども、本格的に、それこそ宇宙空間に届くくらいの規模のことを考えると、可能性というのはかなり狭まってしまっているということですね。

(片野田) 弾道飛行する限りにおいては、規制はそんなに厳しくない。実際、大樹町ではそれをやろうとしています。弾道飛行する打ち上げであれば、そんなに、もちろん調べる必要がありますけど、その場合は、大樹町に行ってノウハウを聞けばいいんじゃないかと思ったんですけど。能代の方がいいのかなという気がしますけど。情報収集さ

れて、ここなら打てますよという最適な場所を JAXA からアドバイスもらいながら、少しずつでも早く準備をされる方が。

(阪本) 具体的に打ち上げをして何をやるか。利用計画もある程度持っておかないという気がします。打ち上げ機会をそうそう稼げるもんじゃないと思う。鹿児島大学でやっておられますロケット実験を活用して学生のイベントを持ってこれるかもしれない。それは割りと分かりやすいアプリケーションだと思います。その他に、どのくらい本格的に小型の衛星の打ち上げみたいなものを行っていくのかということも考えていく必要があると思います。アプリケーションの1つとして、最近注目されているのが宇宙葬ですよ。近年は高齢化が進んでおりますので、もちろん宇宙旅行がいきなりできればいいんですけど、生きている間にはできなくても亡くなった後、体の一部が宇宙に飛んでいくというのは、もう既に事業は始まっていて、国内でも既に1社。もう1社くらい興味を持っておられるところがあってですね、それは割りと簡単というか、本気になってやろうと思えばできない話ではないのかなと考えています。そうすると、例えば、宇宙まで行って星になって燃え尽きるわけじゃなく、実は弾道飛行して海に落下するんですけど、その辺り内緒にするとして、その時に北の海に落ちるのがいいか、南の海に落ちるのがいいのかっていうんで、ひょっとしたら、こちらを選ぶ人もひょっとしたら出てくるのかなとか思っています。その他何かアプリケーションはありますか。たくさん打ち上げるような。例えば、ハイブリッドロケットの将来の応用という観点で、どんなことをお考えになっておられますか。

(片野田) 超小型の人工衛星をなるべく安く打ち上げられればいいなと思います。弾道飛行ですと、大気のサンプリングですとか、可能

であれば超音速の実験とか何かしらできればいいなと思っています。

(阪本) そうすると、大気のサンプリングみたいなことや将来的には回収までも想定しているのでしょうか。

(片野田) そうですね。回収までできたらと考えています。

(阪本) そうすると、回収のために船を出すということも必要になってきますか。

(片野田) そうですね。肝付町の漁協のご協力がいただければ、非常にありがたいと考えています。

(阪本) JAXA の方ではまだ回収までには至ってないんですが、不可能ではない。その他、宿泊とか何かそういう関連インフラでは、どのようなニーズがあるのでしょうか。

(片野田) 宿泊数が増えるかどうかということですかね。

(阪本) 今、仕方が無いので鹿屋から通っているんですが、とか、あるいは、実験の際にこういうのがなくてすごく困りますとか。何かそういうことってあるのでしょうか。

(片野田) 実験をするとすると、設計ミスが判明した際に、打上げ場所である肝付町内で加工ができる工場とかちょっとしたパーツが買えるようなホームセンターとか側にあると非常にいいですね。あとは液体酸素を押し出すためのヘリウムガス、高圧のヘリウムガスのタンクも必要となってきます。今考えているのは、鹿児島市内のガス業者に充填してもらって、ボンベを持ってきて町内で実施する必要も出てきます。持ってきたボンベ全部使い切ってしまうと、もう1回充填しなければいけない場合にまた鹿児島市に戻らないといけないとなると非常に手間がかかります。町内で再充填できるところがあると、実験何回も出来ます。

(阪本) 逆にこちらに来られる人数という意味では、ロケット関係で来られる人数は、圧倒的に見学の方が多いと思うんですね。これは、

フロアの皆さんにむしろお伺いしたいんですが、打ち上げの見学をするのに、これまでここをもう少し肝付町に頑張っていて欲しかったなあみたいなのが、激しく頷いている方とかいらっしやるいますけど、せっかくの機会なんで、もしフロアの方から、こういうところもうちょい頑張ってもらえるとみたいなご意見があれば、大変参考になると思うんですが。いかがですか。

(会場) 1番は、交通網だと思いますね。バスも1時間に1本あるかどうかみたいな感じで。ほとんど手段としては、私は鹿屋市民ですが、鹿屋からですと、ほとんどみんな車で行動する人たちが多くて、他所から来る人たちとなると、高速バスなり飛行機で来る方は結構いると思うんですけど、いずれにしても肝付町内之浦には来る手段としては、ほとんど手立てがないかなと。そこを何とかしないことには、遠距離からの打ち上げの際の見学とかなかなか難しいんじゃないかなと思います。

(阪本) 臨時バスを増便してほしいとかそういう感じのことですね。はい、ありがとうございます。他には会場から意見等がありますでしょうか。

(会場) 資料館を良くしたらいいと思います。

(阪本) 資料館ですね。要は打ち上げがない時にも、宇宙のことを勉強したり、あるいは体験したり、そういうことができる、そういう資料館を整備してくださいということですね。はい、ありがとうございます。

(会場) 長崎から毎回打ち上げの際は来てるかと思えます。町を応援したい気持ちはすごくあるんですけども、お金を使う場所がない。昨年末の2号機の際は、貸し切りバスで鹿児島島から見学場で出店などもあって、初めてこれは1ついいシステムかなとは思いましたけども。それ以前はやはり、先ほどもおっしゃった方がいましたが、車で来ましたので、しょうがないので、内之浦のエネ

オスさんでガソリンを満タンにしたくらいです。そのところですね、今日、町内視察なども案内の方が資料館のグッズの自慢をしきりにされてましたけども、寄ることなくここに連れて来られて、しかもここで30分待たされるというのは、我々にお金使って欲しくないのかなっていう気持ちになります。

(阪本) 大変参考になります。

(会場) 今日は、東京から来てるんですが、内之浦はトンネルできる前から実は来てまして、旧ISAS時代から僕来てるんですが、先ほども言った通り、お金落とすところがないとか、泊まる場所がないというのがあるんですが、まず、交通の便の悪さをどうするかっていうのを考えないと人は来ないと思います。前は4時間かかったのが、今2時間で来れるよって言っても車で2時間です。運転しないとまず来れない。ロケットは定時に上がらないので、例えば、JR九州さんに頼んで、ななつ星の見学コースに入れてもらうといっても、上がりませんというコースに入れない。だから何をやるにあたってロケットでやるんだったら不確定要素をどう楽しむかというイベント事を考えないと無理かなと思います。町も今はローソンができたり、徐々に徐々に良くなっているんですが、泊まる場所がない。ネットが入るのは潮騒荘さんだけとか。ご飯食べる場所もそんなにないとか。せっかく、えつがねもやっていることですし、何かいろいろ町にも他にもすばらしいものがあると思うんですね。マツザキのラーメンでもいいですし、かまぼこでもいいですし、そういうのも含めて、もうちょっとロケットだけに頼らずに町の特産も含めて1年中何かやっぱり来ると観光で楽しめるよというのをまず考えてから、その中でじゃあロケットということだと考えています。そこに企業を呼んでくるとか、

大学呼んでくるようなまちづくりをしないと、まず人が来ないかなと考えています。僕みたいに物好きで年間 6 回来てる人間なんて稀だと思いますので、だからお手伝いがあれば僕らも何かしたいなと思ってますんで、今、何か発信能力が足りない気がします。ホームページ作っただけ。放置とかそんなのが多いので、好き者がたくさんいるので、そういうとこをまずオピニオンリーダーとして使ってうまく情報発信するっていうのをやってないとちょっと、まず、射場が云々とかロケット云々という前に町の体力がなくなってしまうのではないかという気がします。そこを地固めしつつ、ロケットかなという感じがします。

(阪本) はい、ありがとうございました。グッズとかそういうことに関しては、最近少しずつイブシロン関係とか、こんな水が出来たり、色々取組みはされているようですが、確かに売ってる場所という意味では、道の駅みたいなものもさほど多くはない。もう少し商売っ気を出しなさいってアドバイスをいただいたなど。他にございますか。

(会場) 交通網の話もありますけれども、人が来るから道を作るのか。道を作ってから人が来るのか。1 人人を呼ぶきっかけとして、ちょっと違った変なアプローチであるんですが、アニメを使ったりとかいうのも 1 つの方法じゃないかなと。例えば、聖地巡礼とかありますよね。そうしたアプローチから誰にお願いするのはあると思いますけど、そういったところから萌えキャラ作ったりして、町のキャラクターを作って、それにちなんだ例えば、現実的にはあまりないでしょうけど、女の子たちがかわいいキャラクターがロケットを打ち上げるとか、そういったアニメとか、そういったことで町のイメージキャラクターっていうのも 1 つのアプローチの方法かなと思います。そういった形で人がドンドン来れば、経済も

発展して交通網も発達してきて、さらに人が来るというのもあるんじゃないかなという風には思います。

(阪本) 要はロケットの打ち上げだけじゃなくって、何かプラスアルファ、ここにも書いてあるんですけど、いつ来てもそれなりに楽しめるし、それなりに廻る場所があって、時間とお金を十分使うことができますというなんかそういう仕掛けみたいなものがひょっとしたらいいのかなって。そういう事例ってあちこちにあるような気がするんですね。

(中村) 肝付町のいいところをやはり見つめなおすのも大事ななと思っていて、外から見て、大樹町と比べて何が違うかなと見た時に、大樹町って確かに町ぐるみですごく応援してるんですけど、町長が 1 人で騒いでいるように見えるんですね。北海道の人がいたらごめんなさい。それに比べて、肝付町っていうのはすごく長い歴史があるから、それが当たり前のこととして定着していて、住民全員が応援しようとする雰囲気が大樹町と比べるとあるのかなという感じがしてるんですね。だから、それをうまく活用するようなやり方っていうのがあるんじゃないかなって思います。例えばホテルがないんだったら、制約が緩和されているわけだから民泊を活用するとかして、交通手段が足りないんだったら、「Uber」のようなことをやってしまうとか必要かと考えています。大樹町だったら空港から大樹町近いからすぐ行けちゃうんですけど、ここだったら何時間もかかる。何時間、ただ単に座らせておくんじゃないで、ロケットの打ち上げの歴史、例えば、ずっと見てきた人が語るとか、そういう風にすれば、コトづくりをうまくやることによって肝付町ならではの価値っていうのが生まれるんじゃないかなと思っています。今日、阪本先生のプレゼンの中で、すごくたくさん、

いいコトづくりの事例が出てきたと思うんですけど、ハコモノ作るんじゃなくて、コトづくりをどんどん進めることによって、ここに行けばこんな体験ができるんだと知ってもらうことが必要だと考えています。体験をウリにするような施策をどんどん進めていく必要があるんじゃないかなと考えています。ハコモノにお金かけて、人が来るような時代じゃもうないと思うので、住民の盛り上げていきたいんだという気持ちをうまく人を呼ぶエネルギーにかえていくという工夫が必要なんじゃないかなと思います。

(阪本) 宿については、確かに色々問題は指摘されています。例えば「Airbnb」のようなサービスと展開していくことも考えられます。民宿の方では経営者の高齢者で廃業に追い込まれるということもありますが、特に宇宙関係の人が自分の家に宿泊してくれるのであれば、子どもの教育にとって大歓迎ですというような新しい展開がひょっとしたらあるかもしれない。そろそろ飲み会に移らないといけないんですが、これはタウンミーティングですので、こちらからというより、むしろ会場の皆さんからのアイデアがありましたらお願いします。

(会場) 私はアマチュア向けイベントをしていますが、人が集まるためにいくつかどうしても条件があるんです。今このパネルディスカッションの中で話がごっちゃになっていることが、企業さんや大学さんと町がどう関わるかという話と個人をどうやって引っ張り込むかという話が少しごっちゃになりながらきてるからだと考えています。これって実は分けてやっておかないと非常に後で混乱の元になるんで、その辺りは町の方は留意した方がいいんじゃないかなとは思っています。ちょっと思ったのが、小学校の所にはモニュメントなんか

あったりとかしてますけど、都市部の学校なんかでは、理化学系を強化した高校の特別な授業コースを作ろうとか色々あります。そういう教育に関わる場所をもう少し、直接教育そのものをやらなくても、例えば体験学習とか、そういうところをこういった実際にある施設とインフラを活用して展開していくことが出来ないか。極端な話すると、この町は町の規模に全く似つかわしくもないという失礼なんですけど、非常に規模のしっかりした橋がいっぱいあります。理由は簡単で、M ロケットの1段目を運搬するに耐える非常に丈夫なのを作ったというのがあるんですけど。ああいうものも逆にいうと今活用できていないわけなんです。何か別に、どんな屁理屈でもいいと思うんです。まずはそういうのも含めて、子どもたちの興味をここに来れば引き上げられるというようなものをすれば、人やモノ、インフラに対して町が今後投資しやすくなる下地が少しずつ出来てくるようになるんじゃないかと思いました。直接的なすぐって話のものではないですが、そういったところも町として検討されたらいかがでしょうか。

(阪本) 話がごっちゃになっているって話ですけど、今回のタウンミーティングの本当の目的は、事業者をどう巻き込んでいくか。そこからスタートしてるんですけども、一方で、町をどうよくしていくかという観点では、むしろ一般の方をどれだけこっちにお招きすることができるのかと。こっちがむしろ量的には圧倒的に多いんですね。例えば、修学旅行でこっちに来るようにするとか、そご自体今回の趣旨とは、ずれるんですけど、せっかく大勢の方がお集まりいただいているので、その辺りのご意見も聞けたらということと様々なご意見を聞いているということです。町長の方から何かありましたらご意見をいただけませんか

か。

(町長) ありがとうございます。いろんな話をお聞きしながら、そうだよなという思いを抱いていました。特に交通の面とか、そこそこは考えておかないといけないのかなという気もしてるところでした。ほんと肝付応援団、内之浦応援団がいていただきながらそこで貢献することがないというところも、そうだよなって。いろんなロケットの打ち上げがあるにも関わらず、さっと帰っていかれる。残ったのは塵だけだと。町の清掃車と住民の皆さんと一緒にしながらきれいにして帰るとかですね。ここの町の活性化のためにはお客様が喜んでいただけるような仕掛けを本当に真剣に議論しないとイケないと思うところでした。ロケットの話としては、JAXA がきちっと協力してくれるならば、可能性があるのかなと。その代わり町もしっかりとロケットの打ち上げと実験をする。そこには可能性があるのかなというのは少し見えたような気もしました。最近子どもたちが少なくなって学校を統合しました。今年の4月からは学校が1つ空くこととなります。お話をお聞きしたそういうところをうまく活用して、例えば工場がいろいろ組み立てをしたり、そういう空き教室、体育館もありますので、そこを宿泊施設にとか、あるいは学生さんが集う場所とか実験する場所とか、あるいは研究する場所に、例えば、鹿児島大学肝付キャンパスとかそういう形で活用できればよいなと感じています。今日はいろんな所から来てくださっているんだなと胸も熱くなりました。こういう風にして応援団がいて下さる。町もそのことについては、宇宙に1番近い町として夢のような話も最初させていただきましたけど、そういう夢を描きながら前に進むことができたかなと思いをしたところでした。本当にありがとうございました。

(阪本) 時間になりましたので、このパネルディスカッション、皆さんの知恵をお借りしながらいろんなアイデアが出てきたと思います。今、町長からもお話がありましたように、出された意見を参考にさせていただいて、少しずつでもよりよい肝付町になることを願っております。